

# 九州ルーテル学院大学

## Teaching Portfolio

### 2020



所 属： 心理臨床学科

名 前： 増本利信

作成日：2020年10月16日

## 九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：増本利信

所属：人文学部 心理臨床学科 特別支援教育コース

### 1. はじめに

2020年4月に入職し、大学教員として支援者を養成する職務に従事してきた。本学の学生の勤勉さや真摯さに感動することが多く、社会で生きる人材の育成と、学生全員の心理的・身体的に健康な成長を支える責務を強く感じている。

本学学訓である「感恩奉仕」の精神を具現化するために、実践を省察した。

### 2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学での私の教育責任は心理臨床学科特別支援教育コースにおける専門科目と共通教育科目の担当である。

#### 2.1. 授業科目の担当

##### ■ 主要担当科目

##### 「発達障害者の心理」

この科目は、特別支援学校教諭、公認心理師、認定心理士を取得希望する学生を対象としており、特別支援教育免許状を取得する際の必修科目である。知的障がいのある方の心理的、行動的、認知的特性について詳述し、支援の場における正しい当事者理解や支援のあり方を学ぶ科目である。

##### 「軽度発達障害教育総論（教育課程）」

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得希望する学生を対象とし、免許状取得する際の必修科目である。言語障害、精神障害、学習障害などの発達障害のある子どもの支援について、アセスメントのあり方を通じた指導計画立案と指導の実際について、具体例を交えた講義で学ぶ科目である。

##### 「障害者教育総論」

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得する際の必修科目である。特別支援教育をこれから学び始める学生を対象として、その理念、制度、教育内容や方法についての

基本的理解をすることを目的とし、国内外のインクルーシブ教育の動向や、日本における特別支援教育の具体像について支援学校の教育課程を中心として学ぶ科目である。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。2020年度～

- 長崎玉成高校職員研修会 「LDについての理解と支援について」
- NPO法人「それいゆ」職員研修会 「ADHD/LDについて」
- ジャパンライム発達支援DVD 「発達障害の子どもにおけるビジョントレーニングと学習支援」
- 熊本県民カレッジ主催講座 「輝く個性③～学習症と発達性協調運動症」
- 長崎大学子どもの心の医療教育センター職業実践力育成プログラム「発達障害のある子どもを取り巻く環境へのアプローチ」
- 日本LD学会大会シンポジウム 「高等学校における個別の教育支援計画のあり方について」

## 2.2. 教育組織運営

2020年度は学生支援委員会、図書館委員会、教職支援委員会、障がい学生サポート委員会のメンバーとして学内諸業務に従事している。

## 3. 教育の理念

「良き教師である前に良き人間たれ」教師や心理師など支援者を目指す学生に対して、誠実で熱意ある態度で接することを心がけたい。現場における教育実践で得た具体的な実践的な知識を元に、全ての学生の内容理解が進みやすい講義のあり方を追求したいと考えている。

### 3.1. 理念1 自他の心情をしなやかにとらえ、人間的な成長を実感しながら過ごす。

不安な社会情勢の中で、心身ともに健康に日々を過ごすことは重要な課題となっている。学生が他人を愛し、自分へも自信を持って学習や生活を進めることができるように意識して関わりたい。

### 3.2. 理念2 クリティカルな思考スタイルを身につける。

溢れる情報に惑わされることなく自己の考えを醸成することは、今後社会の成員として生き抜く学生に重要なスキルであると認識している。眼前の事象に常に「なぜ・どうして」と問い続ける態度を養うように意識して関わりたい。

### 3.3. 理念3 正確なアセスメント力と適切な指導技術を身につける。

支援者としてクライアントと対する際には豊かな人間性に支えられた適切なアセスメント力と、効果的な指導計画の構築、幅広い支援技術の習得が不可欠である。主観に頼り

すぎず、客観に惑わされない、適切なバランスを持った支援力を養うように意識して関わりたい。

#### 4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

##### 4.1. 授業課題への適切なフィードバックとコメントの充実

オンデマンド配信による授業においては、授業毎のリフレクションを課題として提示している。まずはそれぞれを次回の授業までに精読し、教授が不十分な内容がないか把握したい。その上で学生の理解を確認し適切な理解を賞賛し、点数とコメントによるフィードバックを行いたい。その際、授業内容以外のやりとりについても重視し、オンライン授業における不安が軽減されるようにしたい。

##### 4.2. リフレクションの考え方の醸成と新聞記事などの活用

前述したリフレクション課題について、自身の理解を確認し、自発的な追調査からの理解や、新たな疑問を整理するなど、本課題が自身のための記録であることを常に意識させるような言葉かけを行いたい。また、講義において時事的な話題や推薦図書を紹介することを通して、学生が自己の周囲だけでなく社会の成員として批判的思考を持ち生活するきっかけを与えたい。

##### 4.3 現場での支援を通じた実践的な対応の紹介

学校現場における児童への支援の様子を、アセスメントー計画ー支援ー効果の流れに沿って適宜提示することにより、具体的な支援のあり方が実感を伴って伝わるように工夫するとともに、教育現場の文化や雰囲気に対しての理解を深めることを通して、教育職の価値ややりがいについても伝わるように意識したい。

#### 5. 教育改善のための努力

##### 5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

2020年前期の授業評価アンケートにおいては、リフレクションの意味が分かりにくかったという意見や教師の声が小さかったという指摘を得た。今後の授業において適宜リフレクションの意味と価値を伝えるとともに、適切なリフレクションに対しては具体的な称賛を心がけたり、必要に応じて他学生への紹介を行ったりして全体の理解と意識を高めたい。声の大きさについては自信を持って講話ができるように自己の理解を深め、しっかりとした授業計画のもとで講義に臨みたいと考えている。

##### 5.2. 改善努力2 セミナーや学内FD/SDへの参加

発達障害領域における知見や支援方法は現在活発に議論や開発が進んでおり、日々

のアップデートが不可欠である。諸学会へ参加し、最新の情報を得ながら自己の支援技術を高めることを意識したい。また、学内の研修会においても積極的に参加するだけでなく主体的に学ぶ意識を忘れずに、緒先生方に指導を請いながら自己の教育力を高めたいと考えている。

## 6. 教育の成果・評価

大学における講義を初めて構成するにあたり、単元目標とシラバスに沿った内容となるように心がけながら準備をしたが、十分ではなかったと感じている。学生に提示するスライドについては、視覚的に分かりやすい図示を心がけるとともに、カラーユニバーサル視点から配色を配慮しながら作成した。反面、学生同士の交流を促進する授業の進め方については、対応が不十分であったと感じている。今後も学生の授業評価で挙げられた「交流の機会の不足」「学修ペースのつかみにくさ」については授業運営で意識する必要がある。

## 7. 今後の教育に関する課題と目標

「交流機会の不足」についてはオンデマンド配信である中での方策として、Mentimeterを使った他の学生との考え方や理解の交流を行ったり、Moodleにおけるフォーラム機能を使ったりした取り組みを行いたいと考えている。加えて、リフレクションから適切なものやみんなで考えたい内容について講義で紹介し、共に考える時間を設けたいと思っている。

「学習ペースのつかみにくさ」については適宜単元計画と照らし合わせた学習の予告やまとめを意識することや、毎時間の開始時に本時の内容や到達目標を明示することで見通しをもった主体的な学びが進むように支援したいと考えている。

## 8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果